

乳幼児に言葉がけのストロークを

田中 千寿
(会員)

1. はじめに

筆者にはもうすぐ5歳になる息子がいます。言い換えれば、5年ほど前に私は初めての子育てに取り組み始めました。その頃は本当に家事や料理の要領もあまりよくなく、周りから子育ては大変だと聞き、当然のことながら不安も抱えていました。その筆者が、息子が生まれて間もない頃から取り組み、工夫をしながら積極的にやってみようと決めていたのが、子供への言葉がけです。

2. 具体的にどのようなことに気を付けたか

生まれたばかりの乳児であっても、見捨てられ不安というのを感じるそうです。この見捨てられ不安というのは、捉えようによっては一種の教育的意義のようなものもあるそうですが、過度に見捨てられ不安を感じることは、後の他人への信頼感にさえ影響を及ぼすそうです。どれほど母親が頑張っても、泣いて訴える乳幼児に100パーセント応えることは、到底、容易なことではありませんが、過度の見捨てられ不安を感じさせないように、やはり養育での頑張りは大事だそうです。

筆者は、例えば子供がお腹が空いて泣いたのかなと思われるときには、大まかに言って8割の力を授乳の準備に、2割の力を言葉がけに充てました。その際、理想としては、「よく泣いて教えてくれたね〜。今、用意するよ」と、泣いて主張した子供にストロークを出すような気持ちを込めることにしました。

また、筆者は幼児の語学教育の知識を少しかじっていたことがあります。よく、幼児の英語教室などでは、「Run!」という言葉にあわせて教室内を走り、「Stop!」の言葉にあわせてピタッと止まったりします。これは、子供は体の動きと関連がある言葉は吸収がよいとされているからです。それを踏まえて、例えば「ちょっと待っててね。ミルクを用意するよ」

ではなく「ちょっと待っててね。お腹が空いたね」と、子供が身体で感じているであろうことに直接的に触れる言葉をなるべく使うようにしました。その他の例を挙げるなら、「今すぐ冷房を入れるよ」ではなく「暑いね。今すぐ涼しくするよ」など。

それが実際に功を奏したのかどうか、検証はできませんのですが、我が家の息子は割と幼い頃からはっきりと、「お腹が空いた」「あったかいね」などの言葉を言ってくるようになりました。

3. 今、息子が乳幼児だった頃も振り返りながら

言葉がけのストロークを意識的に乳幼児の頃からすることで、息子とのコミュニケーションを大事にしようという気持ちをつなぐこともでき、良かったのではないかと思います。

ウィニコットの有名な言葉で“Good enough mother”という言葉があるそうです。日本語に置き換えるなら、「実に十分にいい母親」としてもこの言葉の意味を適切に伝えているのでしょうか。

子供が生まれて間もなく、それまでと打って変わったように、忙しい日々が始まります。親としてやることの本当に多いこと。それでも、決して完全な母親をゴールに掲げるのではなく、周囲にも助けてもらいながら、自分の中の愛情の灯をともし続け、子供と共に一日一日。早い時期から言葉がけのストロークを取り入れるのもいいのではないのでしょうか。

ちょっと懐かしい思い出に浸りもしながら書かせて頂きました。

